



横浜市立一本松小学校

4月号

学校だより

横浜市立一本松小学校

校長 高桑 透

令和5年4月7日

『チーム一本松』で新時代の学校教育を

校長 高桑 透

暖かい春らしい陽気が続いています。校庭の桜や柔らかい日差しは、まるで子どもたちの進級と入学を祝ってくれているようです。

本日51名の1年生を迎え、令和5年度の教育活動が始まりました。あらためまして、お子様のご入学、ご進級おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

今年度は、ウィズコロナからポストコロナへと移っていきます。「教育活動をどこまで戻すか」ではなく「この3年間の経験を生かして、どのような学校をつくっていくか」を考える必要があります。「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」を目指して、新しい取り組みをします。

1つ目は、「高学年での教科分担制」です。今までも専科教員がそれぞれの教科を指導することはありましたが、さらに学級担任が隣のクラスで授業をすることにも取り組んでいます。例えば6年生は、「音楽」「家庭」「外国語」専科のほかに、「図工」「体育」を担当2人で分担することになります。他の学年も、子どもたちの実態に合わせて、担任がお互いのクラスでの授業や指導をします。多くの目で子どもたちを見守ることで、担任だけの主観的な視点ではなく、より多角的に子どもたちを理解することができます。子どもたちにとって、いろいろな大人がいるという多様性を感じたり、担任には出しにくい姿を他の教員に見せたりできます。

2つ目は、日課表の工夫です。今までは全て45分授業でしたが、3年生以上の5校時を一部60分授業とし、6校時をカットします。下校時刻を早めるようにすることで、放課後の時間が増えます。忙しい現代の子どもたちにとって、帰宅して自由に使える時間が増えることは、日々の生活にも余裕ができます。また、5月以降には放課後の学校開放も再開します。子どもたちにとって、放課後を過ごす場所として、有意義に使ってほしいと思います。

3つ目は、国際教室の設置です。日本語指導及び教科指導を必要とする児童の増加に対応し、個別最適な学びを実現するための取組のひとつです。

今年度も引き続き、学校教育目標「一本にまっすぐつながる一本松」に向かって、一本松小の子どもたち、保護者の皆様、地域の皆様、教職員、そして一本松小の子どもたちの成長を願う全ての皆様で『チーム一本松』を構成させていただき、「コミュニケーションとチームワーク」を大切に取り組んで参りたいと思います。

本年度も、ご支援、ご協力をよろしく願いいたします。

